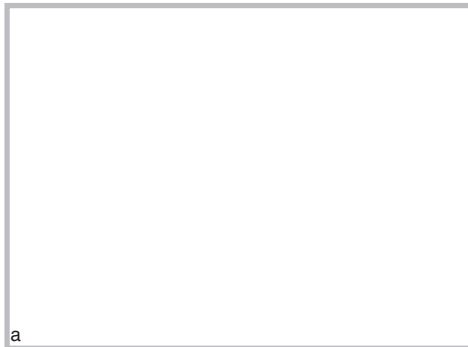
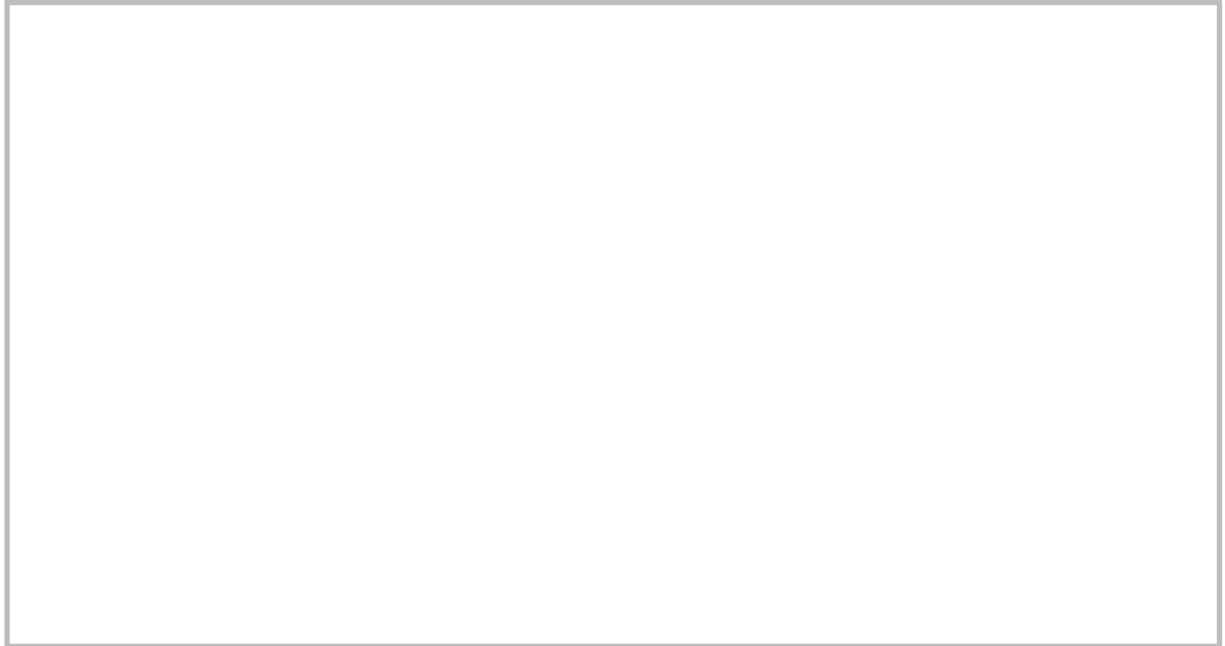
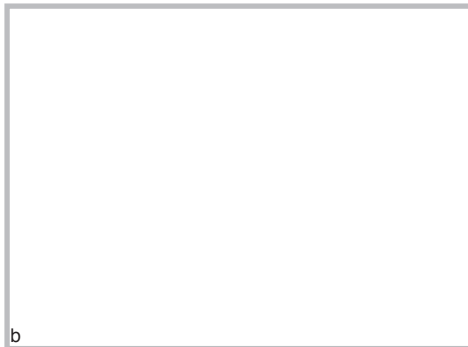




表 15.4 掌蹠角化症の主な病型



a



b

図 15.14② 掌蹠角化症 (palmoplantar keratoderma) さまざまな程度の角化を掌蹠に認める。a：線状掌蹠角化症。b：Vohwinkel 症候群。

を認める。大部分はケラチン9遺伝子の変異によるが、ケラチン1変異の報告もある。

4. 点状掌蹠角化症 punctate palmoplantar keratoderma

加齢とともに掌蹠に点状の過角化をきたし、鶏眼と鑑別を要する(図15.14①d)。AAGAB遺伝子変異によるもの(Buschke-Fischer-Brauer病)などが報告されている。

5. 線状掌蹠角化症 striate palmoplantar keratoderma

常染色体優性遺伝。掌蹠内に線状ないし帯状の過角化を示す(図15.14②a)。デスマグレイン1, デスマプラキン, ケラチン1遺伝子の変異がみられる家系がある。

6. メレダ病 mal de Meleda

常染色体劣性遺伝。SLURPI遺伝子変異による。血族結婚の家系にみられ、日本ではほとんど報告がない。出生直後から潮紅を伴った過角化が出現し、成長とともに手背や足背、膝や肘などに拡大して絞扼輪を形成する。